

社会背景・理念に関するもの

現ビジョンの考え方

- ・ゼロをプラスにするような活動とマイナスをゼロにするようなものをハイブリッドで施策として組み立て、好循環により効率的な施策を実現していくという発想で今の施策の提案が出てきた
- ・多様な人々が住んでいる、多様な地域があるというようなことを重視して、その中で魅力を発見するとか、その多様性を重要視しながら魅力を創出するとかというようなことを考えなければいけない
- ・定住人口だけでなく、交流人口をできるだけ増やして、そして人の活動が高まるということによって、魅力が高まっていくという、そういう居住概念を人の移動ということも含めて拡大していくという議論があった

社会の動き

- ・人々の多様性が重要。世帯の規模についてどういう視点で入れているのか疑問
- ・現在の府の政策も、世帯を単位にした施策がベース。今後また議論させてもらえれば
- ・単身者が増えれば固有のニーズが出る。必要とされる環境が異なってくると思うのでその辺りも検討いただければ
- ・大阪での最も一般的な世帯は単独世帯であり、居住形態を一体どういう風に捉えればいいのか大きな課題。今後も議論を

- ・縮小していく社会における地方のあり方とそれをつないでいくというのが大阪府の大きな役割と思う
- ・活用する一方で縮小していかなければいけない部分もあると思う
- ・住宅の数の縮小を機会に健康であったり、高齢者や障がい者の方に優しいまちの作り方ができる機会だと捉えて、前向きに施策を打っていくことが大事
- ・地域に住むということが非常に重要なので、都市空間を含めた議論をしてもらうことで、居住ということを中心としてまとまるように

目標・方針・指標に関するもの

国内外から多様な人々を惹きつける住まいと都市

生き活きとくらすことができる住まいと都市

環境にやさしく快適にくらすことができる住まいと都市

安全を支える住まいと都市

安心してくらすことができる住まいと都市

様々な分野・主体との連携

- ・商業と住宅の循環をつくるためにそれぞれから何をやるのかという視点もあるのではないかと

民間による主体的・主導的な取組みを推進

- ・住宅政策全体としては民間の力が大きく作用しているのではないかと
- ・現在は住宅市場全体を視野に入れた住宅政策を考えていかなければいけない

ストック・ポテンシャルの活用

みんなでめざそう値の全般

- ・審議会は、そもそも施策として空回りしていないのかとか、あるいはうまくいって両立して、あるいは好循環が高推移で向かっているかということの評価しながら今後のあり方を御検討いただくということに役割はある
- ・これでこのビジョンの評価が数値でできるかという、かなり限界があるので、評価の方法については引き続き議論が必要
- ・人口動態や世帯動態を見据えた数値目標があまり扱われていないという印象

好循環の評価手法

- ・ゼロをプラスにする施策を重層的に組む、ある施策をすることで多分野の課題を解決できる方向性のある評価の仕方を新たに生み出す必要があるのではないかと
- ・どれかモデルケースとして新しい評価の指標設定と把握の仕方をし、それを次の施策に繋いでいくという政策の循環のモデルを作るとよいのではないかと

鳥の目の評価・虫の目の評価

- ・空家の活用などマイクロなところで問題をどう解決してきたのかを把握した方が、より次の施策に繋がるのではないかと
- ・鳥の目で見ると評価だけではなく、虫の目で見ると評価もこの中に取り組んではどうかというご提案
- ・個別のケースについて府の施策として議論していく形になってくると審議会委員もできるかぎり現地に行って、現場を見て考えるということも必要と思う

新たな課題

健康とまちづくり

- ・まちづくりの目標は健康だと言うご指摘も、ほぼ同じ
- ・ハイブリッド型で居住の魅力を上げるといって健康が大きく関連してくるのでは
- ・政策の評価指標の中に健康という視点を取りこめないかというご提案

- ・以下については、すでに健康についてのエビデンスがある。
  - －公園、まちのあり方
  - －地域が活性化による、災害復興のスピード
  - －ソーシャルキャピタルとの関連
  - －みどりの多いまちが心筋梗塞で亡くなる率
  - －どういうまちが歩数が多いか

施策に関するもの

GDと住まいのあり方

- ・「グランドデザイン大阪都市圏」では住宅施策とそのま結びついた記載にはなっていない。ここに住まいのあり方も一緒に書き込むような方向性があるべきではないかと

空家

- ・空家の定義を含めて、もう少しきちんとした議論をしなければいけない
- ・近年では、投資目的の住宅で、居住者のいない住宅の問題もある

子育て支援

- ・公営住宅は低所得ゾーンを構成し住宅政策と育ちの関係が上手くかんでいない
- ・単に住宅だけでなく、保育施設などの施策の表記があればわかりやすいと思う
- ・府外からの小さな子供を持った働き手に提供できるサービスがあると良い

省エネ基準

- ・省エネ基準は最低基準であり、さらに上を目指さなければいけない。公的機関から上を目指すような指針を提示してはどうか

密集市街地対策

- ・地域の方のご理解や現状の共有というものが無いと進みにくいのではないかと

居住支援

- ・他の県でもセーフティネット法の登録はオーナーにはメリットがあまりあるものではなく、本当に円滑に登録されるのかという議論をした
- ・空家を利用することで、画一的なものにならず地域のコミュニティーを大切にまちづくりを再生できる
- ・居住支援協議会を活性化しいろんな問題をもう少し深めてもらえれば
- ・同和地区は、非常に高齢化が高く、貧困の問題も含めたまちづくりをしていく必要がある